

カンシヨ

ヒルガオ科 原産地：南アメリカ 学名：Ipomea batatas Poir.

早掘りマルチ

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作 型												
主な作業	種 芋 採 植 収 伏 チ ル 付 穫 込 グ 苗 け み											

技 術 体 系

1 作型の特徴

植付時期は4月下旬～5月上旬で、挿し苗後90日で収穫を開始する早掘りの作型である。従って、地温確保のためのポリマルチ、定植時期の遵守（晩霜の恐れがなくなったらできるだけ早く植え付ける。）が重要となる。

2 適応地域

平坦地域

3 栽培条件

（1）温度

熱帯性の高温作物で、地温15℃では生長が止まり、10℃では枯死、地温15～35℃の範囲では高いほど生長が旺盛となる。逆に38℃を超えると生長が鈍る。芋の肥大に好適な温度は20～30℃である。

（2）光 多照・強光を好むため、日照が少ないと芋の肥大や充実が悪くなる。

（3）土壌 植物体は乾燥にはよく耐え得るが、塊根の発育には適当な水分を必要とする。土壌の適応性は広いが、砂質土では生育が早く、芋の形は丸型、粉質となり、土壌水分が多くなると長くなる。

粘質土では初期生育は遅れるが、次第に良くなり収量も上がる。早掘りには、地温の早く上がる砂質土が良いが、乾燥害を受けやすいので砂壤土が適する。

土壌酸度は中性からやや酸性が好むが、pHが高いほ場では立枯病の発生が懸念される。

4 施設装備

- （1）マルチャー
- （2）つる切り機
- （3）掘り取り機
- （4）芋洗い機
- （5）貯蔵庫

5 経営目標

- （1）収量 2.5 t / 10a
- （2）投下労働時間 60 時間 / 10a
- （3）所得率 40 %
- （4）経営規模 100a
(家族労働力2人の場合)

栽 培 技 術

1 品種と特性

「高系14号」

生食用を主とした品種で、早掘栽培に適する。皮色は紅色で、芋の形状は、紡錘形～長紡錘形、萌芽

性は不良で育苗しにくい。黒斑病、立枯病、ネコブセンチュウには弱いがネグサレセンチュウには強い。気候、土質に対する適応性は比較的広い。

2 育苗

(1) 種芋準備

種芋は、無病無傷のものを使用し、皮色が美しく、表皮がなめらかな紡錘形のものを収穫時に選んでおく。帯状粗皮病対策としては、ウイルスフリー苗を利用する。

種芋は200～300 gのものを10a当たり80～100 kg準備する。

(2) 苗床の準備

育苗ハウスは10a当たり15～20 m²準備し、日当たり良好で風当たりの少ない排水良好な無病地に設置する。床土は良質な堆肥を利用し、基肥を緩効性肥料で窒素・リン酸・カリの成分量でそれぞれ30 g/m²程度施用する。

(3) 種芋の伏せ込み

植え付け50～60日前に、20 cm × 20 cm間隔で、種芋が隠れる程度に覆土して灌水を十分に行う。その上から保温と乾燥防止のためにポリフィルムを被覆する。

萌芽までは床温30℃、萌芽後はハウス内が30℃を超えないよう換気し、夜間は15℃を目標に管理する。

伏せ込み後、1週間から10日で萌芽が始まるので、芽を焼かないようポリフィルムを除去する。

(4) 採苗

採苗は茎部2～3節残して切り取る。苗の大きさは展開葉7～8枚、苗長25 cm、1本重15 g以上の苗が良い。

採苗後苗床にNを10 g/m²程度施用、苗床が乾燥すれば灌水し、次の伸長を促す。

3 施肥

施肥量 (kg/10a)

	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	備考
基肥	5	12	15	

※全量基肥とする。火山灰土ではP₂O₅は5 kg

程度増肥する。施肥量は、土壌診断結果により加減する。

4 畦作り・植え付け（挿し苗）

栽植様式は、畦幅75 cm、株間30 cm、10a当たり4,440本を基準とする。

マルチは地温確保のため、透明マルチを使用する。地温確保のために、植え付け1週間前までには被覆しておく。

挿し苗後は、乾燥防止と苗がマルチに接触して焼けるのを防ぐため、株元に覆土する。

5 置き苗

栽培面積の多い場合や、雨の前に一斉に植え付ける場合は置き苗をする。置き苗は納屋などに立てかけておき、乾燥を避けるため、ビニル等で覆う。置き苗の限界は4～5日で、それ以上期間が長くなると活着が悪くなるので注意する。

6 収穫期

挿し苗後90日以降から収穫でき、芋の肥大を確認しながら収穫する。